

五 月 (今月の掲示板)

H.29
(2017年)

新しゅうおおたには
眞宗大谷派・願成寺

佛教は『(極)樂な心になる』生き方を教えます

佛教は『懸命に努力する・逆に怠けた日々を送る』の両極端ではなく、中道(ゆつたり楽しく真剣な生活)を教えます。例えば、病気(気を病む)の時、頑張って治そうとか・絶望せず、医者に頼り自然治癒(体が自然に治す)力を上げると回復すると、お釈迦様は説きました。

自然とは人間抜きの景色を言い、自然是景色の中に人間も入ります。太陽・山・海など自然のままの真実を『無為自然』と言い、男や女として生まれた・腹が減る・汗が出るなど、思い通りにならない事を『業道自然』と言います。『無為自然から全てのものが生まれて来た』と解ると全生物・空氣・雨水・食料などで活かされていふ私と気づきます。無為自然から生まれ・業道自然に悩む人間を、何とかして無為自然にまで連れて行きたいとの仏の願いが『願力自然(本願)』の働きです。親鸞聖人の教えは、「煩惱を無くせず・腹を立てる御粗末な私と、仏の前に頭が下がると救われる』です。

主な参考資料

- (1)米沢英雄(著)『親鸞を生きる』、弥生書房、p.7~59(1985年)。
- (2)ひろさちや(著)『日めくり説法』、校正出版社、p.1~4(2009年)。
- (3)ひろさちや(著)『自分を生きる』、家の光協会、p.80~89(平成14年)。